

令和元年度 道大会・支部大会並びに支部専門委員における共通実践事項

1) 大会

- ・開閉式における整列は縦列・横列の距離間隔をとり、合わせる。
また、礼法・挨拶の指導を行う。(必要に応じて)(頭髪面も必要に応じて)
- ・試合開始前の正面の礼は試合会場数により、予め専門委員がその会場を決め、第一試合主審の号令「正面に礼」で同時に行う。また、審判長の「試合開始」の号令により試合を一斉に開始する。
- ・審判の交代は入れ替えで行うため、各試合場審判席(椅子3)を用意する。
- ・選手席においては、選手・補員・マネージャー・監督のみとし、選手・補員は外套類着用禁止・マネージャーは剣道着・制服(ない場合はそれにふさわしい服装)・監督はスーツまたはブレザーでネクタイ着用を原則とする。審判員が監督と兼務し、監督席に入る場合は審判のプレートは外す。また、選手席内での写真およびビデオの撮影は禁止とする。
- ・団体戦、個人戦の礼は九歩の間での主審の号令後(礼)をし、前後の礼の必要性がないことを指導する。選手席は問わない。また、ハイタッチや拳を使ったタッチなどはさせない。
- ・試合中の応援は拍手のみとし、選手の打突に対する声を出して審判員をあおる行為はその都度、指導する。(審判主任)
- ・試合において稽古着・袴・名札、目印などに華美な加工を禁止する。また、ミサンガや健康グッズ的なものは身につけさせない。
- ・チーム内に同姓がいる場合には、区別がつくように名前の一文字を名札とオーダー用紙にそれぞれ入れるよう協力を求める。
- ・会場内の私物(剣道具・竹刀・貴重品・その他)管理を指導する。
- ・事故防止のため、竹刀の点検・小手紐・面紐等について指導する。
- ・髪の長い選手は、目印が隠れないように結ぶよう指導する。
- ・面金ガードは、試合時は着用しないように指導する。
- ・剣道着の袖に、中学時の刺繍やワッペンがないように指導する。
- ・適正な剣道具を使用するように指導する。
- ・専門委員は支部大会における審判技術の向上や指導に努める。

2) 研修

- ・専門委員は支部の剣道普及・発展のため大会の見直し、生徒の確保、審判技術の向上のため研修活動に積極的に取り組む。
- ・専門委員は自ら先頭に立ち稽古に取り組む。
- ・支部間の情報交換を密にし、互いに刺激し合い切磋琢磨に努める。